

元戦車中隊長の模型部屋

第13回

皆さんこんにちは！新生活が始まるやいなや、世界中を不安に陥れる新型コロナウイルスへの対応に困ってしまいますね。とにかく、沈静化するまでみんなで心を一つにして、これ以上の被害拡大を防ぎましょう。さて、今回は不要不急の外出を控え、ひたすら部屋にこもって作製した・・・



多連装ロケットシステム自走発射機 M270MLRS です。

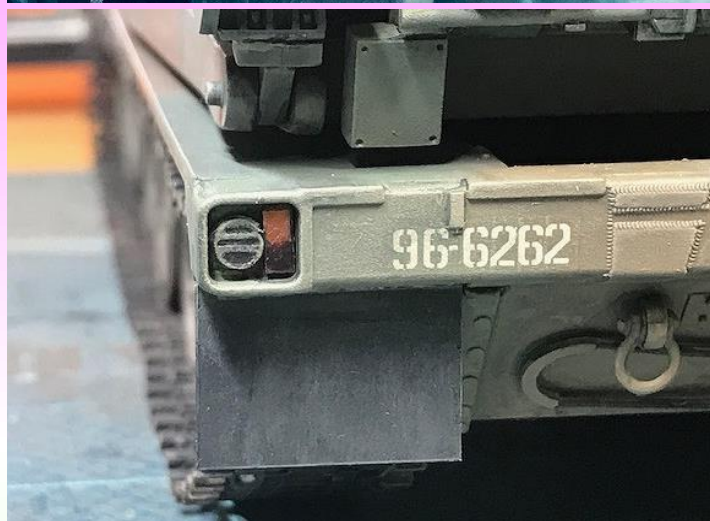
キットはドラゴン社製で、以前は陸上自衛隊仕様で発売されていましたが、生産が中止となり、今はこのキットそのものが入手困難となっています。今回の作品は米軍仕様のキットを陸自仕様に改造したもので、装備品自体も北海道、静岡、九州の一部の部隊にしか配備されておらず、なかなか実物を見ることが出来ない貴重な装備品でもあります。昔のキットだけに、部品の合いが悪かったりして組立には苦労しました。色々と資料を集めて作成しましたが、多少の間違いがあるかも・・・配備部隊の隊員の皆様、間違いがあってもお許しください<(_ _)>



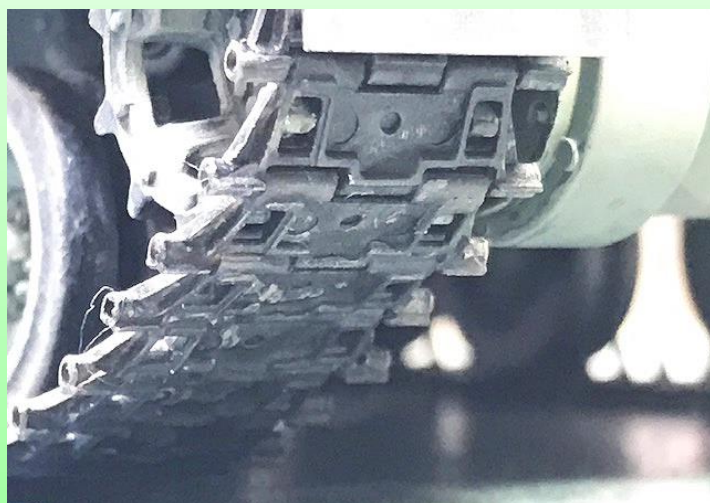
MLRSは、ロケット弾でかなりの広域を制圧できる凄い装備品です。射撃シーンの写真を見ると、戦車に乗っていた私でも爆炎の凄まじさに $\Sigma(p, \Delta)$ ギェ!! …となってしまいます。興味のある方はネットで見てください。ロケットランチャーを横向きにして射撃するみたいです。



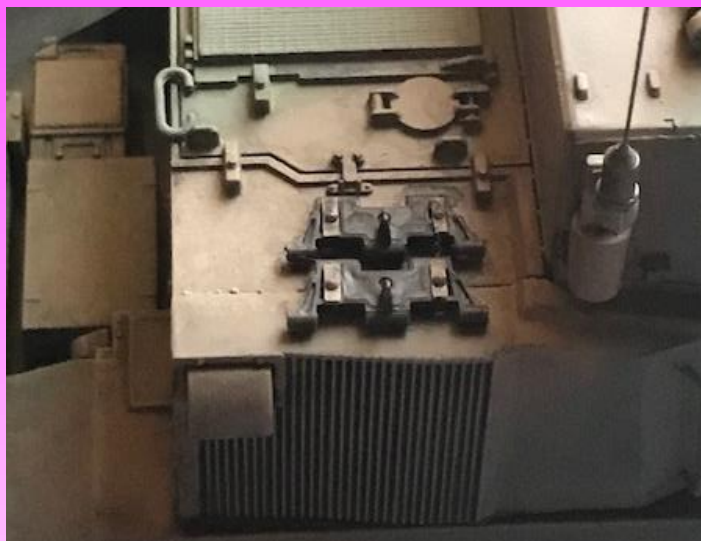
構造上、ロケットランチャーを上に向けてから横に回さないとダメみたいですね。現職自衛官が模型で理解する装備品の構造機能（笑）角ばったフォルムが近代装備品感を醸し出します。



陸自仕様にするためにはいろいろ改造しなければなりませんでした。まずは灯火。前照灯は方向指示器やライトの幅、ライトガードの切り欠き等、プラ板や他の模型部品から複製して装着しました。透明レンズのはめ込みも施しました。電源コード接続部を自作して取り付けてます。テールライトも陸自のものと違ったので、同様に他のキット部品を複製しました。オレンジの方向指示器が ザ・日本ですね（笑）



履帯もキット付属のものは形状が違うので、AFVクラブの組み立て式履帯を使用しました。マッドガードもプラ板で自作と、かなり手を加えなければなりません。



※陸自仕様にするための続きです。

左：土工具をアスカモデルの陸自装備品セットを使用。留め具は過去に作ったエッチングパーツの残りを使用しました。「蝶ネジ」があるのがわかりますか？

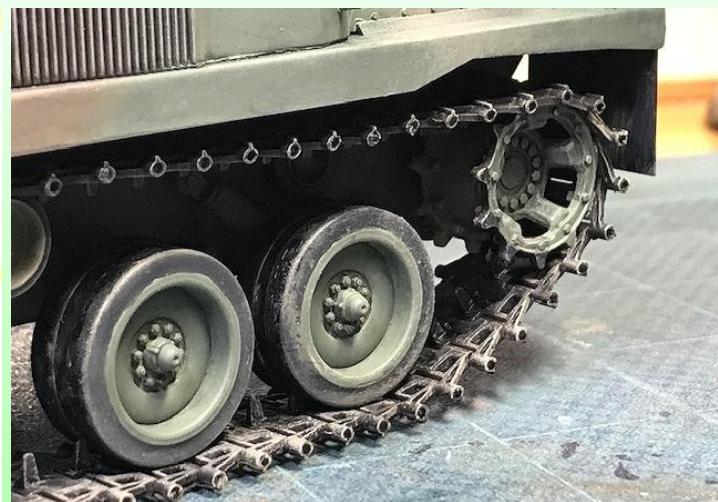
右：予備履帯をキャビン後部に取り付けます。履帯が組み立て式なので余った履帯を使用し、止め具をプラ板と伸ばしランナーの輪切りを使用しました。



各種ハッチは可能な限り可動にして中が見えるようにしました。あれだけ細かく塗り分けた車内がほんの一部しか見えなくなります ・°・(ノ口)・°・



ミサイルランチャーを最大仰角に上げた状態ですが、誘導弾なのでこんな状態で射撃するかは不明です。ランチャー基部の円形部分にはたくさんのコード類があるのですが、資料がないので省略しました。ごめんなさい・・・



左：ミサイルランチャー後部 ランチャー自体は陸自迷彩ではなく米国グリーンのようなので、イメージに近いGSIクレオスの濃緑色（中島系）を使用しました。陸自迷彩はタミヤラッカーペイントを使用しました。

右：履帯と起動輪の接触部は削れて地金が出るのでメタルカラーのダークアイアンで塗装し磨いています。

射撃よーい！



撃て！



今年のGWは外出を控え、皆さんも自宅でプラモの作製などいかがでしょうか？
それでは、今回はこれまで。次回もまた趣味の世界にお付き合いくださいね！